

# Fintechによる新サービスを アドバイスに活用することが FPに求められています

サービスの利便性向上や新たな顧客の取り込みを図るためにFintech企業との連携を図る金融機関が増えている。金融の世界には何が起きているのか、Fintechの浸透により個人の行動やFP業務にはどんな変化が起こるのか——。マネーフォワードFintech研究所の瀧俊雄所長にお話を伺った。

## ベンチャー企業が主役となり 革新的なサービスが登場

——Fintech（フィンテック）に注目が集まっていますが、新しいテーマであることから戸惑っている人も多いようです。いま、金融の世界には何が起きているのでしょうか。

**瀧** フィンテックは、米国では2014年の終わりから、日本では昨年の2月くらいから、突如、政策的・戦略的テーマとして登場しました。「金融×IT」ということで、個人資産管理、資産運用、融資、決済、送金、保険、不動産などとテーマが多岐にわたるため、皆さんが戸惑うのも無理はありません。

しかし、ポイントは2つに絞られます。

ひとつは、金融業務の中の特にサービスレイヤーにおいて、消費者の利便性を高めるインターネットを使った革新的なサービスが生まれているという点。

もうひとつは、その主役がベンチャー企業であるという点です。フィンテックが台頭してきた背景には3つの要因があります。

第一に、プログラムのオープンソース化やインフラのクラウド化などにより、サービスの開発・普及にかかるコストが体感値ですが15年前の5分の1にまで低下したことです。第二に、スマートフォンの普及により、開発したサービスを利用するためのアプリが簡単に公開できるようになり、サービスを広告・宣伝するためのコストが下がったこと。

そして第三に、サービスを使う側が、スマートフォンを使って最新情報を簡単に入手し、自分に有利な買い物をしたりサービスを利用したりできるようになったことで、金融サービスにも利便性や情報の透明性を期待し始めたことです。

先行する米国では、一定レベルの多様なサービスを提供する銀行などの金融機関に対し、利

# 瀧俊雄

株式会社マネーフォワード Fintech 研究所長

